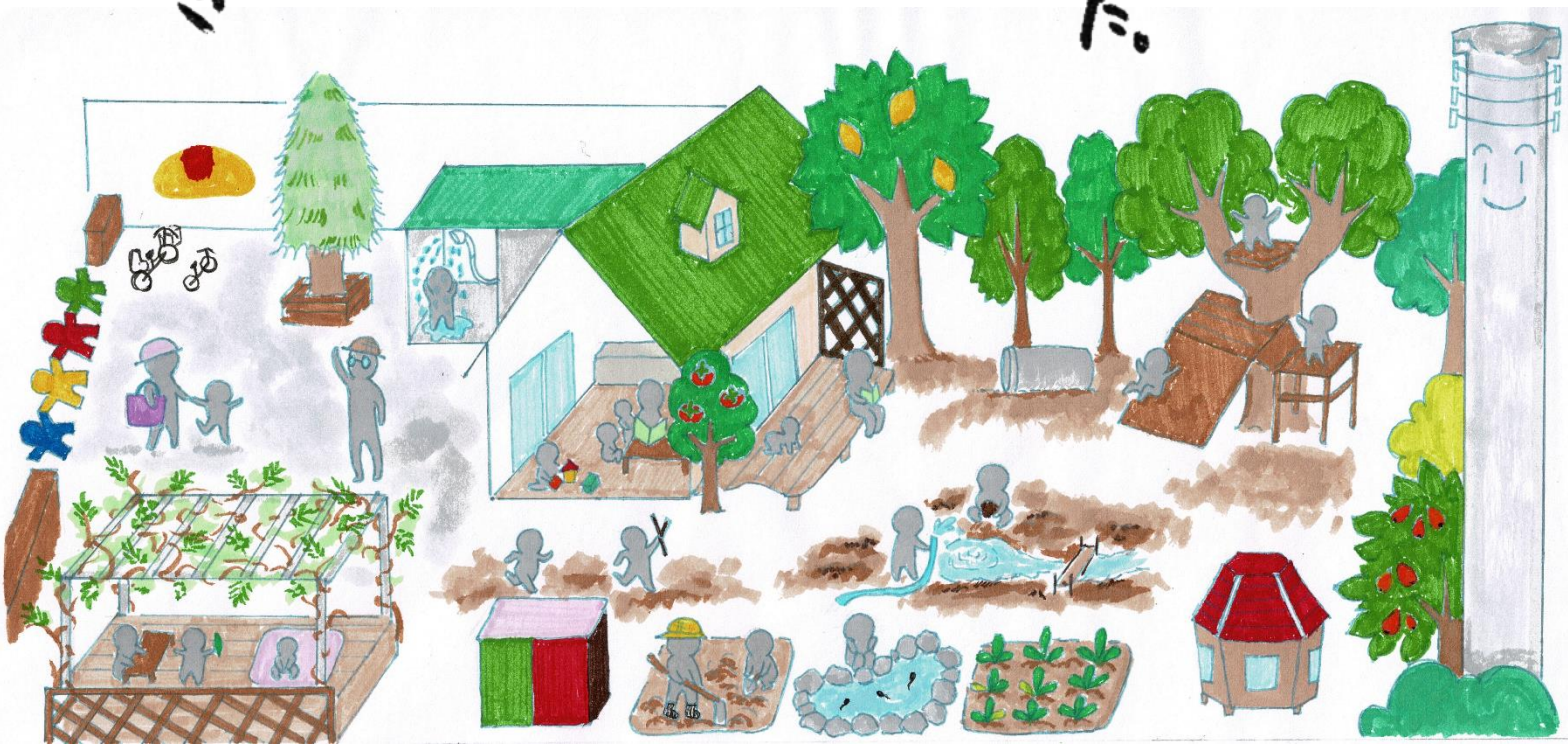
テットーひろば

20周年記念号
(2023冬合併号)

発行：ＮＰＯ法人野沢３丁目遊び場づくりの会

私の子どもの頃のように
今の子たちも遊んでほしい
そう願った人がいた。
その人は願っただけで終りにしなかった。
いろんなところを奔走した。
つめたい対応もあった。
それでもあきらめなかった。
野沢の一角に生まれた
小さな遊び場。
今そこには
子どもたちの歓声が響く。
お母さんたちの輪が広がる。
たったひとりの子ども時代の思い出が
たくさんの人を幸せにした。

のざわテットーひろば3周年によせて
2005年10月10日 あまのひであき



天野秀昭氏の直筆コメントは、「のざわテットーひろば3年間の記念誌」より引用しました。

20周年記念イベントレポート -PART1-

２０２２年７月１８日（月・海の日）、のざわテットーひろば２０周年記念イベントを開催しました。
〈PART１〉では、第１部「みんなでふりかえるテットーの２０年」の対談の記録を、かいつまんでお伝えします。

【パネリスト】山縣恒子さん（テットーひろば大家）　野下　健さん（テットーひろば第3代プレーリーダー）
池田栄子さん（テットーひろば初代代表）　岩間祥子さん（テットーひろば第4代プレーリーダー）
【ファシリテーター】石原　遼（テットーひろば第5代プレーリーダー）

テットーひろばの成り立ち

山縣：1999年だったと思うんですけど、ワンルームマンションが建つということで、近隣の皆様が治安が悪くなるのではと心配で反対運動が起こりまして、（境界線の）ギリギリまで建つという話を聞いて、その時元気だった主人が会社で買い取ってくれて。それで『君の好きなように使っていいよ』と言われたんですね。「ドッグラン」や「家庭菜園」はどうかと思ったんですが、家族からは反対されました。その時、ある雑誌で、「子どもが自由に遊べるプレーパーク」という記事を見たんですね。府中のほうのプレーパークに行って、そこで、羽根木プレーパークの天野さんを紹介していただきました。その後、池田さんや天野さんとこちらの土地を見に来ていただいて具体化することになったんです。開始するにあたっては、近隣の方々に同意をいただきたいと思って、アンケートを作ってお配りしました。最初はもう本当にシーンとしていまして、私は塀の向こうから覗いて、今日は3人来てるかなぁなんて思ったものです。娘からは『お母さん、今日は子どもの声が聞こえたね、よかったね』なんてからかわれる始末でした。

池田：テットーをつくっていったのは「目黒子ども劇場」の仲間たちなんですね。「目黒子ども劇場」の総会の後に、『野沢のほうで、子どもの遊び場を貸してくれるって人がいるけど見に行かない？』と言われたんですね。話を聞きに行ったら、山縣さんが『（この土地を）使ってください』とおっしゃるから、使ってくださいって言われてもなぁと思って。でも、素敵な場所を貸してくださるんだから、そりゃ何かしようと思って。そしたらQちゃん（古賀久貴さん（「日本冒険遊び場づくり協会」元事務局長）の愛称）が、次から次へと助成金の申請用紙を持ってきて、もう最初の頃は、助成金の申請書をどれだけ書いたかなと思うぐらいね。
さっき山縣さんは、「アンケートをとって近隣の皆さんから賛成を得られました」とおっしゃったけれども、実際に始まってみて子どもたちの声がしてからでは違うと思っていて、最初の頃からご迷惑おかけしてて、それを許してくださっているんですけども、まだずっとご迷惑おかけしながらここまでやらせてもらっているという意識はずっと持っていてほしいんですよ。最初の頃、隣にお住まいの方に『最近どうですか』と聞いたときに、『子どもの声はまだいいけど、お母さんたちの旦那の悪口とか聞こえてきて、気持ちが悪い』とおっしゃったんです。それで山縣さんにお願いして、今はもうなくなってしまったけど木を植えてくださって、なるべく近づけないようにしました。テットーも「素晴らしい」だけじゃなく、ご近所にご迷惑をおかけしながらやっているということを、今の人たちが意識してくださると嬉しいと思います。

「みどりのやね」の裏話

池田：「せたがやまちづくりファンド」が（年間）500万円の助成額で、リフォームするのに（助成金を）出すということで、受けたんです。裏デッキとつながるように壁を開けたらどうかという提案に対して、私は『この建物は山縣さんにお借りしているので、そんな家を大々的に（改造）するのは、私はできない』と言いながら、山縣さんに聞いたら、いとも簡単に『いいわよ』とか言って。開いて裏庭が見えて、トイレも外のほうに移して、そのおかげでQちゃんがいたこの職場（「日本冒険遊び場づくり協会」の事務所）は追いやられてかわいそうだったけど。

テットーひろば20年のあゆみ

2000年頃
- 4階建てワンルームマンション建設計画が持ち上がり、反対運動を受けて、隣に住む山縣さんが土地を買い取る。

当時は駐車場でした

2001年
- 山縣さんが、冒険遊び場情報室(当時)に、遊び場づくりの相談をする。組織の立ち上げや運営方法に関する話し合いが始まる。

2002年
- 1月23日、任意団体「野沢3丁目遊び場づくりの会」発足。初代代表に池田栄子が就任。
- 2月13日、第1回オープニングイベント「餅つきと獅子舞」開催。
- 3月17日、第2回オープニングイベント「あそぼうパン」開催。
- 4月3日、テットーひろば開園。無理のない範囲で始めようと、まずは毎週水曜日を開園日とした。
- 5月、運営資金確保のため、テットーバザー開催。以後、年2回行う。

野下：この「みどりのやね」を建ててくださった方もいろいろ考えてくれたらしくて、上を見るとすごい太い鉄骨が入ってて、真ん中に（柱が）立っていなくても（間口を）広げられるというのは、すごく先のことを考えて作っていただいていると思っています。

池田：山縣さんはこの家に2000万もかけていらっしゃったんですよね。もうびっくりしてね。

野下：窓から屋根の端までの距離も、普通の家よりは全然広いですよ。そのおかげで使いやすさがある。うちの上の子にも発達にでこぼこがあって、人それぞれで見え方違うなというのをこの歳になって思っていて、ここは役に立ったかな、逆にここは世田谷でうまくいかなかったかな、というところも振り返っていました。

プレーリーダーとして意識していたこと

野下：山縣さんは「まず地域に開いて」という思いがおありだったので、どうやって中に入りやすくするかというのはずっと考えていました。入口に手をつないでいる板が置いてあるんですけど、あれを置く前は、（子どもが）飛び出してしまうのが心配だからとお母さんたちが門を閉めていたんですね。それでは地域に開いた場所にはならない、と思いついたのが背の低くて子どもが飛び出ない看板で、少ししてから自転車を乗せたまま倒せる看板が生まれて。そういう入口まわりは、常に大事にしていたと思います。

岩間：お母さんたちにどう声をかけていこうか、お母さんや子どもの顔を覚える。1人でテットーに来て、家にいるのとあまり変わらないなという人をつくらない。常連のお母さんばかりで入りにくいという見え方はあったので、入るのを諦めてしまう人がいないように、ということはすごく気にかけていました。

テットーの未来に望むこと

山縣：私はもう年齢ですので、運営に関しては、今関わっている方たちにおまかせして、それで安心と思っています。派閥やグループ意識がないように、初めての人が入りやすい場所になってほしいと願っております。

野下：そろそろ「2代目」が来ないかって。テットーで育った子どもが子どもを産んでテットーに来る、というのはあと数年ですよね。世田谷プレーパークでは普通に見られる状況だと思うんですけど、ちょっとそれ見てみたいな。

岩間：世田谷でない場所で子育てをしていて、なんて世田谷って恵まれている場所なんだろうと思ったんです。そういう場所が近所にあるということを、まずこの場の人たちが誇りに思っていいし、この場を続けることで、お母さんがテットーに来て少しでも救われて、子育て楽しいなと思う人が街中に増えていくことが未来をよくすると思います。

区長あいさつ（世田谷区長･保坂展人さん）

保坂：確か、10周年のときにも呼んでいただいていて、10年前に来たときよりも確かに緑が多くなっていますが、「子どもの声は騒音か」という問題が10年以上前に持ち上がったんですよね。ドイツは静穏権が守られていて、環境条例があって、ハンブルクの幼稚園が（子どもの声が）騒音のレベルの基準を超えているということで、裁判所から閉鎖命令が出て、親たちが座り込んで『子どもの声は騒音じゃない』と言って、ベルリンの市議会で「子どもの声を騒音から除く」という条例改正が行われて、ドイツ連邦法でも同じように除外されたんです。日本でも、東京都の「環境確保条例」で同じように改正が行われましたが、おかしなことに、「未就学児童の声は騒音じゃない」となっているので、就学した子どもはどうなんだという声が残るんですけれども。テットーひろばが地域にとけこんで、子どもたちの自由な遊びが日常となっているのは素晴らしいことだと思います。子どもの遊び場もまだまだ十分とは言えません。子どもたちがすくすくと育って、地域の大人も仲良くなれるようなテットーひろばが20年を超えて、ますます発展していくことを区としても応援したいと思います。

さいごに

石原：4人の方々と区長のお話を聞いていて、すごくエネルギーをもらった気がします。コロナ禍でテレワークされる方が増えて、子どもの声をうるさいと感じる方も少なくなく、僕らもどうしようかといつも話しているんですけども。さっき、池田さんが「ご近所にご迷惑をおかけしながらやっているという意識をもつ」という話がありましたが、イベントの前に隣接しているお宅にはお手紙をお渡ししていて、対話を大事にしながらやっていますが、それを地道に続けていくことで少しでもテットーのような場が大事だ、と言ってくれる人たちが増えるように、頑張って続けていきたいなと思いました。

テットーひろば20年のあゆみ

- 2003年
  - 8月、週2日開園（水・土曜）となる。9月には、こうちゃん（中平公士）が初代プレーリーダーに就任。
- 2004年
  - 4月、ハイジ（重松奈緒）が第2代プレーリーダーに就任。
  - 9月、のっしー（野下健）が第3代プレーリーダーに就任。
  - 11月、「気まぐれテットーカフェ」（現在の「TETTO KITCHEN」）開始。
- 2005年
  - 3月、「3年間の記録誌」を発行。
- 2006年
  - 7月、大型すべり台が完成。
- 2007年
  - 4月、週5日開園（月・水・木・金・土曜）となる。
  - 10月、世田谷区おでかけひろば事業に認定。藤棚下に20畳のウッドデッキが完成。
- 2008年
  - 1月、ピザ窯が完成。
  - 4月、休園日が日・木曜となる。

20周年記念イベントレポート -PART2-

〈PART２〉では、第２部「ミニマルシェ＆タイムカプセル掘りおこし」の様子をお伝えします。
「２０周年おめでとう!」のくす玉割りとともに、午後のプログラムがスタート!室内スペースやウッドデッキを会場にした「ミニマルシェ」、土のひろばを会場にした「タイムカプセル掘り起こし」を行いました。
プログラムの報告を、各担当スタッフよりレポートします!

ミニマルシェ

13：00～15：00　／　室内スペース・ウッドデッキ

「久しぶりに来園する方々を手作りの品でお迎えしたい」「遊びに来た子どもたちが楽しめるお店を出したい」と、現在テットーひろばに関わっているお母さんたちや、お隣の〈ガーデンカフェときそら〉さんが企画に賛同してくださり、『テットーミニマルシェ』を開催しました。

ハンドメイド小物やくじ引き、フェイスペイントには子どもたちの賑やかな列ができ、オーガニックグラノーラや焼き菓子のお店には保坂区長が立ち寄る一場面も。イベントの賑わいに、一層華を添えてくれました。また、テットーひろば２０周年記念グッズも製作・販売したので、今後お揃いのテットーオリジナルTシャツを着て遊ぶ親子の姿が見られるかもしれませんね!

（報告:椙山洋子）

タイムカプセル掘り起こし

14：00～15：00　／　土のひろば（裏庭）

１１年前の２０１２年、３代目プレーリーダー「のっしー」（野下健さん）がテットーひろばを去る時に、みんなで埋めたタイムカプセルを掘り出す日がついにやってきました!みんなの曖昧な記憶と当時の動画や写真を頼りに、子どもや若者たちと掘り出していきます。

開始から５０分ほど経過し、「このまま見つからなかったらどうしよう…」なんて不安がよぎった瞬間、ついにタイムカプセルがお目見えしました!その瞬間の子どもたちの歓声と大人の拍手!
半分朽ちてる一斗缶の中からは、タイムスリップしたお手紙たちがあふれるように出てきました。テットーひろばの昔と今をつないだ素敵な企画になりました。

（報告:赤阪美智子）

テットーひろば20年のあゆみ

- 2008年
  - 6月、裏ウッドデッキ・トイレ棟が完成。
  - 10月、テットーにわには（現在の「はたけ部」の前身活動）が開始。
- 2009年
  - 2月2日、NPO法人格を取得。
- 2012年
  - 8月、きのこハウスが完成。
  - 10月20日、10周年記念イベントを開催。
- 2013年
  - 4月、さっちゃん（岩間祥子）が第4代プレーリーダーに就任。
- 2014年
  - 「はたけ部」が活動開始。
- 2015年
  - 「こめつ部」が活動開始。1年間のお米づくり体験プログラムを行う。
- 2018年
  - 4月、いえもん（石原遼）が第5代プレーリーダーに就任。
  - 11月、「おやじ部」が活動開始。
- 2021年
  - 4月、ビオトープが完成。
- 2022年
  - 7月18日、20周年記念イベントを開催。

20周年記念イベントレポート －PART3－

〈PART３〉では、２０周年記念イベントレポートに載せきれなかった写真たちを一挙紹介します！
直前の梅雨のような天気から一変して好天に恵まれ、最近の常連さんから久しぶりな人まで、２０５名の来園者で賑わいました。たくさんの方に支えられ、愛されてきたテットーひろばだったんだと実感しました。
もしかしたら、懐かしい顔があるかも!?

保坂展人世田谷区長を迎えて、第１部の登壇者・関係者のみなさんと。

当日の運営を手伝ってくれた、IVUSA東京世田谷クラブ（学生ボランティア団体）のみんなと子どもたち。ありがとう！

イベント終了後、運営を支えてくれたみなさんと集合写真を撮りました。
ここに映れなかった方々、ごめんなさい！

Thank you for all of your love and support !

はたちのバースデードネーション報告

２０２２年６月２０日（月）～８月３１日（水）までの７２日間、「のざわテットーひろば はたちのバースデードネーション」にチャレンジしました。
テットーひろば２１年目のチャレンジは、目標金額こそ達成できませんでしたが、改めてたくさんの方々に応援いただいていることを再認識できました。みなさんの応援の気持ちを胸に、これからも一歩一歩、着実に歩んでいきたいと思います。ご支援いただいたみなさま、本当にありがとうございました!!

バースデードネーション 結果報告

★ご寄付総額※ **396,276円**

★支援者数 **66名**

★達成率 **19.8%**

目標金額 2,000,000円

※ご寄付総額からsyncable決済手数料（４７，９３９円）を差し引き、３４８，３３７円が活動運営費に充当されます。

ご支援いただいたみなさま

バースデードネーションを通してご支援いただいた方のお名前や応援コメントを紹介させていただきます。

息子が赤ちゃんの時から親子でお世話になっています。私たちにとってかけがえのない場所です。子どもの育ちを見守ってくれてありがとう、これからもどうぞよろしく！

同じプレーパークを作る仲間として、千葉から応援しています！

屋内と屋外、両方の良さを生かしたステキなひろば、これからも応援しています！

上の子が赤ちゃんの時にお世話になりました！テットーにはすごい助けられたので気持ちですが、寄付させていただきます(^^) いつか、また遊びにいけたらいいなー！遠くから応援してます！

●支援者氏名:
相澤孝紀、青木佳織、青木道代、赤阪美智子、市川徹、糸賀未己子、井上恵、入江雅子、岩井マミ、大垣真理子、大杉真砂子、太田駒子、大橋泰代、岡崎友美、岡本君子、金子祐子、金子由起、鎌上茂樹、唐澤桃子、川村尚子、北川潤子、木村見依、清原未来、くぼにわゆかり、久米隼、倉内絢子、黒田絵美、幸田祐紀子、古賀久貴、越永和子、後藤友子、小林由枝、澤邉廣、篠原ひなた、篠原瑠那、渋沢やこ、下薗佳弘、椙山洋子、介川貴晶、関茉莉、関口笑子、関戸まゆみ、高橋利道、高橋麻里、高山香織、武田緑、竹中愛華、塚本重美、西川千佳子、長谷川いく美、パトソンみゆき、濱崎麻紀子、林希栄子、藤田小百合、布施賢造、堀由夏、本間千春、松下円、三浦紅緒、村上聡美、安井三矢子、山縣恒子、山縣美智子、吉泉唯、米倉智恵美、渡辺景子（五十音順／敬称略）

返礼品について

ご寄付いただいた方々へのささやかな御礼として、以下の２点をお送りいたします。
さらに、５，０００円以上の高額をご寄付いただいた方には、オリジナル手作りキーホルダーを贈呈いたします!

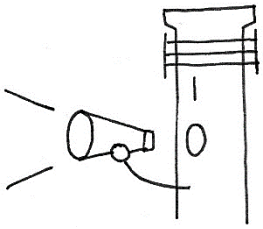
◎あそびばつうしん「テットーてつび２０周年記念号」（本紙）
◎TETTO KITCHEN お好きな飲み物１杯無料クーポン

当初のご案内では、２０２２年９月頃の発送を予定しておりましたが、本紙の製作に多くの時間を費やしてしまいました。大変お待たせしてしまい、申し訳ございません。

※写真はイメージです

てっとうてつび
徹頭徹尾

テットーレポート



★テットーひろばが「小さな森」に登録されました！

この度、一般財団法人世田谷トラストまちづくりが行っている「小さな森制度」に、のざわテットーひろばが登録されました!「小さな森」とは、野鳥や昆虫など自然生態の保護や、まちに潤いを与えてくれる民有の緑地を登録し、区民共有の財産である都市の貴重なみどりを保全する制度です。
テットーひろばのシンボルである白い鉄塔の下に広がる豊かなみどり、土、畑、そしてそこに子どもや大人たちが集うこの場が、「小さな森」の多様性が感じられると評価いただきました。地域の方など多世代の方が“つくり手”となって、子どもの遊び場・子育ての場を盛り上げていけたらと願っています。

★いえもん先生、誕生？！

２０２２年１１月、横浜市立新鶴見小学校３年生の「総合的な学習の時間」にて、プレーリーダー・いえもんがゲストスピーカーとして登壇しました。今年度、３年生のクラスでは「プレーパークを作ろう!」というテーマで学習活動に取り組んでいます。当日は「プレーパークってどんなところ?」というタイトルで、プレーパークではこんな遊びをしてるよ!こんな遊具があるよ!プレーリーダーってこんな仕事してるよ!という内容をお話しできました。
子どもたちからは「プレーパークとはどういうものなのかがわかった」「自分たちには足りていなかった、自由を取り入れてやってみたい!」などの感想をいただきました。楽しいプレーパークづくりにむけて、みんながんばれ～!

わたしのひとりごと ～20周年に寄せて～

代表　のり

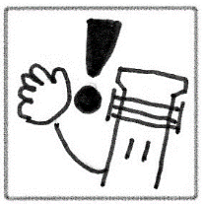
２０２２年度からテットーひろば代表を務め、９歳男子と６歳女子の２児の父。
趣味はランニング、水泳、サーフィンなど、身体を動かすことが大好き。

子どもの遊びを真ん中にドンと置いて、いれかわり立ち替わり、そのときできることを、無理せず、やれるときに、たくさんの手で支えられてきたテットーひろばの２０年。言い切っちゃって後で叱られそうな気もするけど、たぶん大事なことってこういうことだと思います。
次の２０年――いま遊びまわってる子たちが、大きくなって、自分の子どもを連れてくる未来でも、子どもの遊びが真ん中にドンとあるテットーひろばが続いてますように。これまで大事にしてたことを、つないでいきたいと思いました。

プレーリーダー　いえもん

テットーひろば開園日にほぼ必ずいる常勤スタッフ５年目。子どもの遊びを見守り、時には一緒に遊び、子どもが自由に遊べる環境づくりをしています。

テットーひろば２０周年という節目に、プレーリーダーとしてこの場に関われたことに誇りを持っています。２０年分の想いのバトンを受け取った今、次の１０年、２０年を走り抜けていくエネルギーをたくさんもらった気がします。
「家庭や学校、地域の中で、おとなが幸せでいてほしいのです。子どもはそういう中で、安心して生きることができます。」神奈川県川崎市で子どもの権利条例を制定するとき、条例づくりに関わった子どもたちが大人に宛てたメッセージに、こんな一文があります。子どもが思いっきり遊べる場だけでなく、おとなが幸せになれる場を、みんなと一緒につくっていきたいと胸に刻んだ瞬間でした。はたち、おめでとう!ありがとう!



“ささえの手”募集中！

のざわテットーひろばの運営は、子育て真最中あるいは子育てが
ひと段落した地域の大人たちの思いと力によって成り立っています。
ぜひ、私たちといっしょに地域の遊び場をつくりませんか？

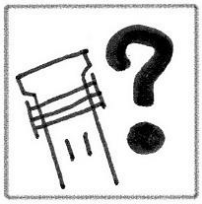
■ささえ手会員（運営会員）でささえる！

イベントの企画からひろば全体の運営など、さまざまなことを毎月のミーティングで話し合います。
時には、自分の「やってみたい！」と思う企画をみんなで話し合いながら、カタチにすることができます。
テットーひろばのミーティング・総会での議決権があります。
★年会費：１口１０００円（１口から／うち３５０円は、ボランティア保険に充てられます）

■気持ちささえ手会員（賛助会員）でささえる！

のざわテットーひろばの運営を資金面から支えます。
★年会費：１口１０００円（２口以上からお願いします）

＊年２回開催する会員限定の交流会や、子育て支援講座などのイベントに会員価格で参加できるなどの特典もあります！
登録方法など、詳しくはお問い合わせください。



のざわテットーひろばってなあに？

「地域のみんなで子育てしよう！」「子どもたちにもっと自由な遊び場を！」
という地域住民の思いで開放された私有地を利用した、地域の遊び場です。
子どもたちの「やってみたい！」と思う遊びが自由にできます。

敷地の中央には「みどりのやね」と呼ばれる小さな家があり、絵本やベビーベッドがあるので、赤ちゃん連れのママ＆パパでも安心。
乳幼児を中心とした異年齢の子どもが「遊び」を通して関わりあい、活き活きと育ちゆく姿を、親だけでない多世代の大人が見守っています。

★ 開園日には、プレーリーダーがいます！

いえもん

プレーリーダーは開園日にいつもいる人、“テットーの顔”です。
子どもが「やってみたい！」と思う遊びを見守り、遊びの素材・道具の準備や手入れ、遊具の安全管理など、遊びの環境づくりを中心に行っています。何か分からないことがあったら、プレーリーダーのいえもんにお気軽に声をかけてくださいね♪

★ テットーひろばの日常やイベント情報を、各種ＷＥＢ媒体で発信中！

「初めてのテットーひろば、なんとなく入りづらいなあ…」という方は、
まずイベントに参加してみてください。
イベント情報は、ホームページやFacebook、インスタグラムなどの各種SNSでも定期的に発信しています！
イベント報告や日常のようすなどは、ブログ「テットーひろばdeのほほん」を見てね！

のざわテットーひろば

〈運営：NPO法人野沢3丁目遊び場づくりの会〉

〒154-0003　東京都世田谷区野沢3-14-22
TEL　03-3418-9950　　MAIL　info@tettohiroba.org
WEB　https://tettohiroba.org
時間　10:00～17:00（11月～1月は16:00まで）
休み　毎週日曜日・木曜日、お盆時期、年末年始

東急東横線「学芸大学駅」から徒歩12分
東急・小田急バス「野沢三丁目」から徒歩5分

［編集］赤阪美智子、石原遼、椙山洋子、介川貴晶、濱田憲和、渡辺景子
［写真］赤阪美智子、石原遼　　［表紙イラスト］古森真理子